

# BORDERLESS IR CO., LTD

## ANNOUNCES NEWSLETTER

株式会社ダイキアクス(4245 東証1部)  
2021年12月期第2四半期決算概要

2021年8月17日東京

**2021年12月期第2四半期は増収増益。主力の環境機器関連事業、住宅機器関連事業とも2桁の増収増益。インドで浄化槽設備の引き合いが旺盛。**

### 決算概要

○当第2四半期連結累計期間の同社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き低迷した状況が続いている。

○このような状況下、2021年2月に2021年度から2023年度における新中期経営計画「PROTECT x CHANGE」を策定した。コーポレートスローガンである「PROTECT x CHANGE」をメインテーマにすることで、あらためてグループ全社員がこのコーポレートスローガンを深く理解・体現し、グループとして一体感を持って企業使命である「環境を守る。未来を変える。」を推進する。

この新中期経営計画では、新型コロナウイルス感染症の影響によって定量目標は単年度目標のみ策定しており、定性目標は、将来の収益性の向上という前中期計画を踏襲し、今後も推進、引き続き成長戦略としている。具体的には、環境機器関連事業セグメントにおいては、海外における事業展開の推進、ストックビジネスとしてのメンテナンス事業及び上水エスコ事業の拡大、住宅機器関連事業セグメントにおいては、ECビジネスの開始、新商材の発掘等、安定事業から成長事業へ転化、再生可能エネルギー関連事業セグメントにおいては、循環型社会の実現と安定収益確保の強化、ポストFIT高付加価値事業・商材の発掘を行い、全社では、IT戦略を実現するための組織強化、生産性向上ツールとしてITを利活用していくとしている。

○第2四半期連結累計期間の売上高は191億17百万円(前年同期比9.6%増)となった。売上総利益は40億8百万円(前年同期比+5.7%)、営業利益は7億80百万円(前年同四半期比+14.3%)、経常利益は8億64百万円(前年同四半期比+14.2%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億40百万円(前年同四半期比+56.3%)となった。

○環境機器関連事業は、浄化槽・排水処理システムの売上高は前年同四半期と比べ大幅増加。国内売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響による設備投資需要の減少はあるが、大型案件(食品工場等の産業排水処理施設)の工事進行基準による進捗率に応じた売上高の計上が寄与、海外売上高も新型コロナウイルス感染拡大による景況悪化の影響を引き続き受けているが、中国における大型案件(食品工場の産業排水処理施設)の完成、インドの旺盛な引き合いの影響で、海外売上高は増加。ストックビジネスであるメンテナンス売上については、成長戦略に基づいたメンテナンス契約の拡大を推進したことにより増加。

地下水飲料化事業に関しては、ストックビジネスであるエスコ契約に係る売上高およびメンテナンス売上は新規契約によって増加している。プラント販売も当第2四半期連結累計期間において案件が完成したことによって売上高は増加。また、人件費は増加しているが、旅費交通費等減少等によって販管費は前年同期と同水準で推移した結果、セグメント利益は大幅に増加。結果、環境機器関連事業の第2四半期連結累計期間の売上高は101億34百万円(前年同期比+17.1%)、セグメント利益(営業利益)は、8億82百万円(前年同期比+51.0%)となった。

○住宅機器関連事業は、建設関連業者等売上は、新型コロナウイルス感染症の影響で一部工期が後ろ倒しになったが、体育館における放射冷暖房設備の設置や環境配慮型商材の販売に加え、ホームセンターを運営するDCM向けの空調・衛生機器等の改修・更新、マンションへの衛生機器等の納入や教育関連施設への家具納入などの大型案件の影響によって大幅に増加した。また、新型コロナウイルス感染症に関連した補助金の影響により、非接触型トイレ(自動開閉や自動洗浄等)の需要も多く発生した。住機部門工事は、設備投資需要消極化の影響のある中、外壁工事および冷凍・冷蔵設備売上については、中大型案件の影響によって増加、農業温室関係の売上が減少した。ホームセンターリテール商材は、前第2四半期連結累計期間においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりメーカー製品の出荷が滞り納品が遅延した影響があり、需要の高い非接触型商材については納期に時間がかかっているが、その他の商品調達については大きな影響がなく、モデルチェンジによる新商品販売により売上は増加している。ECビジネスにおいては新型コロナウイルス感染症の影響によって協力業者との関係構築が停滞、提供可能エリア・サービスに制限があったが売上は堅調。結果、住宅機器関連事業の売上高は82億円(前年同期比+11.1%)、セグメント利益(営業利益)は、2億93百万円(前年同期比+10.2%)となった。

○再生可能エネルギー関連事業は、太陽光発電に係る売電事業において、2018年度よりDCMグループの店舗屋根を賃借して発電施設を建設し、固定価格買取制度(FIT)を利用した売電を実施。当第2四半期連結累計期間末日において130件(前年同四半期末日は127件)の系統連系が完了し、当初計画していた施設への設置はすべて完了。売上高は日照時間が前年同四半期と比較して長かったこともあり増加要因となったが、前第2四半期連結累計期間末に株式会社DADを売却したことにより太陽光発電に係る売電事業の売上高は減少。また、一部の施設の施工上の不具合が判明し、同様の施設点検をした際に生じた費用が発生したことからセグメント利益は減少。小形風力発電機関連事業は、当第2同四半期累計期間に6施設の連携が完了した。バイオディーゼル燃料関連事業は、バイオディーゼル燃料を5%混合することで軽油と同様に利用することができる「B5軽油」の契約件数が増加。再生可能エネルギー関連事業の売上高は、4億52百万円(前年同期比+1.5%)、セグメント利益(営業利益)は、1億21百万円(前年同期比-33.6%)となった。

○その他の事業は、土木工事業において、株式会社DADを前第2四半期連結会計期間末に売却したことにより売上高は大きく減少した。家庭用飲料水事業は、水道直結型のウォーターサーバーの契約者数の増加によって堅調に推移した。この結果、その他の事業は売上高3億29百万円(前年同期比-65.8%)、セグメント利益(営業利益)は63百万円(前年同期比-34.8%)となった。

株式会社ダイキアキス(4245 東証1部)<https://www.daiki-axis.com/>  
2021年12月期第2四半期決算短信については、こちらをご参照ください。  
→<https://www.daiki-axis.com/ir/library/#>

## リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は

一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

#### リリースに関する照会先

Borderless IR 株式会社 <http://b-ir.co.jp/japanese/main.php>

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

TEL 03-4588-6706 担当:福田 徹

お問い合わせ <http://b-ir.co.jp/japanese/contact.php>

Borderless IR は、国内・海外向けIR情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外IR支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。